

お客が楽しめる観光農園を

工夫重ね集客数順調に増加

松伏町 ファームティーエス



男性客の居場所も確保し、過ごしやすい農園づくりに努める白倉代表

間約3千人で、1年目に比べ大幅に客数が伸びている。

農園のコンセプトは「ゆっくりゆったり心地よい農園」。摘み取りしやすい高さ約90センチの高設栽培で、甘みや酸みなどが異なる2品種（紅ほっぺと章姫）の畝を交互に設置。移動しなくても食べ比べができ、車いすやベビーカーも通れるスペースを確保している。

また、観光農園では珍しく各組にテーブルと椅子を用意し、人混みや女性が多くて居づらいという男性の居場所も確保されるよう工夫している。白倉代表は「観光農園はサービス業。積極的にお客さまに話しかけ、どうしたら過ごしやすい空間となるのか試行錯誤している」と話す。

【埼玉】松伏町の株ファームティーエス（白倉正浩代表取締役、51）は、2019年に農業法人（株）しゅん・あぐりと中堅ゼネコンの鉄建建設（株）が共同出資した法人。翌20年1月からイチゴの観光農園「コロコロいちごファーム」を開園している。「15坪の5連棟ハウスに約1万株を栽培したが、コロナ禍での開園となったので本当に心配だった。今は順調に集客も伸び、これからは本番」と話す白倉代表。2年目となる21年の来客数は年

今後は第二の観光農園を計画しており「イチゴも接客も質を落とさず、お客さま全員が楽しめる農園づくりを追及していきたい」と抱負を語ってくれた。